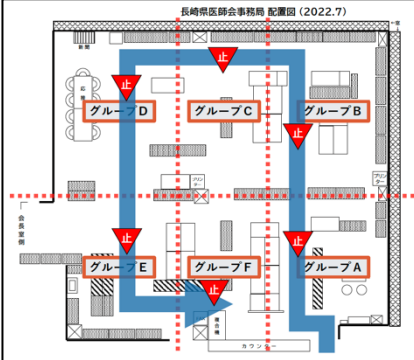





## リモート会議ツールを使用した職場巡視実習

<b>ガイドラインステップ</b>	<b>キーワード (6つ以内)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場巡視</li> <li>・ 研修・教育・実習</li> <li>・ 遠隔産業衛生</li> </ul>
5・7・8・10・15		
<b>改善・ 取組みの 背景と 課題</b>	<p>産業医向けの職場巡視研修として、従来は企業の協力を得て実際の就業現場の見学実習を行っていた。しかし新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、受入先の企業より「感染症対策の観点から受入れ困難」との意向が示されるようになった。そのため見学の場の確保や職場巡視研修の機会の確保が課題となっていた。</p> <p>また、見学の場合は受講者の集団での行動・移動が必要となるため、受講者の感染症対策も課題となっていた。</p>	
<b>改善・ 取組みの 着眼点</b>	<p>職場巡視研修の機会の確保として、受入先企業へ入構することなく巡視実習を行う方法を検討した。リモート会議ツールを使用したりリモート巡視が実施可能であれば、受入先に対して感染症に関するリスクを発生させずに巡視実習を実施できる。</p>	
<b>改善・ 取組みの 概要</b>	<p>リモート会議ツールを使用する場合、巡視時の映像がインターネットを経由する事になるため、セキュリティの問題が発生する。その点も考慮に入れて実習受入先を検討し、産業医研修会の主催者である長崎県医師会に打診したところ、当該医師会館の事務所を実習での巡視職場とする事について了承を得る事ができた。</p> <p>今回の研修では日医産業医資格の単位取得が可能となるよう、受講者が研修会場に集合して行う必要があった。そのため受講者の感染症対策も検討した。リモート巡視実習の場合は実地での会議と同じ形式で実施することになるため、三密の回避（換気の確保・距離の確保・パーティションの設置等）にて対応した。</p> <p>スタッフは研修会場に講師とサポートスタッフ数名（マイクの受渡し等）、巡視職場（医師会館の事務所）に配信者を配置した。機材は講師用にノート PC、配信者用にタブレット端末（iPad）を準備し、各々にリモート会議ツール（Zoom）を導入した。講師用 PC はプロジェクターに接続して、研修会場の前面にあるスクリーンに講義スライドや巡視職場の映像（Zoom の画面）を投影した。その他、講師用と受講者用にワイヤレスのハンドマイクを準備して、会場のスピーカーに接続した。</p> <p>研修では講義（職場巡視に関する基礎知識・リモート巡視の注意点・事務所巡視のポイントの整理）と実習（リモート巡視）を行った。</p> <p>実習に際して、まず受講者を 6 グループに振り分けてリーダー（巡視時の指示者）を決め、巡視職場を 6 エリアに分けて各グループに割り振った。次に配信者への指示方法（カメラの向け方、対象物への接近等）および巡視職場全体の様子を受講者に把握してもらうために、講師が配信者に指示して巡視職場全体を一巡してもらい、各エリアの中心でそのエリア全体を映してもらった。そして各グループに時間を割り振り、順番に担当エリアのリモート巡視を行った。その際はリーダーが中心となって配信者へ指示を行った。最後にグループ討議にて巡視結果を報告書にまとめ、巡視職場の良好事項と要改善事項および巡視の際に注意した点を発表した。</p> <p>リモート巡視の実施中は、巡視職場にいる配信者がタブレット端末を使用して映像を配信し、研修会場にいる講師や受講者がスクリーンに映った巡視職場の映像を見ながら配信者に指示を出して巡視を行った。受講者の指示が配信者へ伝わりづらい場合は、適宜講師が配信者へ補足説明を行った。</p>	

<p>写真・ 図表・ イラスト</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>(1) 巡視職場 配置図</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>(3) 実習中の様子：実習会場</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p>(2) 巡回報告書</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>(4) 実習中の様子：巡視職場</p> </div> </div>
<p>効果</p>	<p>2022 年度は 3 回実施した（長崎市：2 回、佐世保市：1 回）。応募倍率は最高で 4 倍近くとなった（定員 30 名、応募者 111 名）。これまでは受入企業まで受講者が赴く必要があるため、遠方の受講希望者は参加が難しかった。しかし本実習ならば巡視職場の立地に影響されずに実習会場を設定できるため、受講希望者が参加しやすくなったと思われる（新型コロナウイルス感染症パンデミックにより単位取得可能な実地研修が実施できていなかったために今回応募が殺到した可能性もある）。</p> <p>受講者からは「リモートではあったが実際に巡視を体験できて良かった」「グループ討議により他の受講者の視点を知る事ができた」と感想があった。</p>
<p>この GPS の 経験から 学ぶこと ができる ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巡視実習を有意義なものとするためには、職場を「巡視する」という「体験」を提供する事が肝要である。感染症対策の観点から受入先企業の確保が困難となっている中で、巡視実習として「巡視」を「体験」する機会を提供する事ができた。</li> <li>・ グループで実習を行う事で、他の参加者との「議論・討議」の機会を確保し、巡視の際の様々な視点を共有する事ができた。</li> <li>・ 今後注目されるであろう「リモートでの職場巡視」について、その限界や注意点の「解説」だけでなく、実習で実際に配信者へ指示しリモート巡視を行う事で「体験」も提供する事ができた。</li> <li>・ 今回は単位取得の都合で受講者が実習会場に集合する必要があったが、今後自宅での受講による単位取得が容易となれば、離島の多い長崎県において、離島の受講者の巡視実習への参加機会の確保が期待できる。</li> <li>・ 実習の際の巡視職場の確保については、実地に赴いての見学とは異なった課題がある事に留意する必要がある（インターネットを経由して外部へ映像配信する事になるため、情報漏洩のリスクが生じる）。</li> </ul>
<p>参考資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産業保健と看護、vol.13 no.3 2021、pp.13-20、「リモートで行う健康管理 実践例 どうする？ 職場巡視」、メディカ出版</li> <li>2) 健康開発、vol.25 no.3 2021、pp.33-39、「リモートでの職場巡視の試行で見えてきた限界と課題」、健康開発科学研究会</li> </ol>
<p>COI 欄</p>	<p>長崎県医師会主催（産業医学振興財団より委託）の産業医研修会として実施した。</p>
<p>投稿者</p>	<p>黒崎靖嘉、田川宜昌      e-mail      2023 年 4 月 25 日</p>